

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

A5

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 09221410 A

(43) Date of publication of application: 26.08.97

(51) Int. Cl **A61K 7/00**
A61K 7/48
A61K 35/78
A61K 35/78

(21) Application number: 08052301

(71) Applicant: NOEVIR CO LTD

(22) Date of filing: 14.02.96

(72) Inventor: IMAHORI ATSUKO

(54) AGING PREVENTING SKIN OINTMENT

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a skin ointment capable of preventing aging of skin caused by active oxygen, comprising an extract of a specific plant as an active oxygen scavenger, etc., and eliminating active oxygen generated in skin by ultraviolet light and metabolism.

SOLUTION: This skin ointment for preventing aging uses an extract obtained by extracting a leaf, stem, root or seed part of *Petroselium saticum* with water or an

organic solvent such as ethanol, methanol, 1,3-butylene glycol, etc. The extract of *Petroselium saticum* is usable as a singlet oxygen scavenger. The skin ointment is useful as a cosmetic. The amount of the extract of *Petroselium saticum* added to the skin ointment for preventing aging is preferably 0.001-5wt%. The ointment can be in a form such as lotion, oil, emulsion, cream, ointment, etc. The ointment can be made into various preparation forms such as skin lotion, milky lotion, pack, beauty culture liquid, cleaning agent, etc.

COPYRIGHT: (C)1997,JPO

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-221410

(43)公開日 平成9年(1997)8月26日

(51)Int.Cl.⁶
A 61 K 7/00

識別記号
A 61 K 7/00
7/48
35/78
ADA
AED

F I
A 61 K 7/00
7/48
35/78
ADA
AEDN

技術表示箇所
K
W

審査請求 未請求 請求項の数3 FD (全7頁)

(21)出願番号 特願平8-52301

(22)出願日 平成8年(1996)2月14日

(71)出願人 000135324

株式会社ノエピア

兵庫県神戸市中央区港島中町6丁目13番地
の1

(72)発明者 今堀 篤子

滋賀県八日市市岡田町字野上112-1 株
式会社ノエピア滋賀中央研究所内

(74)代理人 小川 篤子

(54)【発明の名称】 老化防止用皮膚外用剤

(57)【要約】

【課題】 皮膚の老化に深く関与する活性酸素、特に一重項酸素を消去することにより、安全で有効な老化防止用皮膚外用剤を得る。

【解決手段】 活性酸素特に一重項酸素を消去する作用を有するバセリ(Petroselium sativum)の抽出物を皮膚外用剤基剤に含有させる。これにより、シワやタルミなどの皮膚の老化症状を効果的に予防することができる。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 パセリ (Petroselium sativum) の抽出物を活性酸素消去剤として配合してなる、老化防止用皮膚外用剤。

【請求項2】 パセリ (Petroselium sativum) の抽出物を一重項酸素消去剤として配合してなる、老化防止用皮膚外用剤。

【請求項3】 皮膚外用剤が化粧料であることを特徴とする、請求項1又は請求項2に記載の老化防止用皮膚外用剤。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、パセリ抽出物を活性酸素消去剤として配合することにより、紫外線や代謝により皮膚内に生じる活性酸素を消去して、活性酸素に起因する皮膚の老化を防止する皮膚外用剤に関する。

【0002】

【従来の技術】 生体内の代謝反応や紫外線により生体で発生する一重項酸素をはじめとする活性酸素種は、皮膚のシワ形成、真皮構成成分の変成等、皮膚の老化に深くかかわることが示唆されてきた。

【0003】 それゆえ、かかる活性酸素種を消去する物質を皮膚外用剤に配合することが、皮膚の老化を防止するには有効であると考えられ、ビタミンE群化合物や、茶をはじめ各種植物の抽出成分を活性酸素消去剤として配合する試みがなされてきた。

【0004】 しかしながら、従来用いられてきた 活性酸素消去剤は、作用及び安定性の面で充分ではなく、特に複雑な处方系の皮膚外用剤に配合した場合、満足な効果は得られ難かった。

【0005】 また、パセリ (Petroselium sativum) は、セリ科 (Umbelliferae) の2年生の草本植物であり、原産は地中海であるが全世界で主に食用を目的として栽培されている。このパセリ抽出物の皮膚外用剤への応用としては、美白効果 (特開昭54-49344)、脱毛予防効果 (特開昭53-52607)、口臭予防効果 (特公昭61-40646) 等が開示されている。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】 従って、本発明においては、特に皮膚の老化に深く関与する活性酸素を消去する物質を配合し、安全で有効な老化防止用皮膚外用剤を提供することを目的とする。

【0007】

【発明を解決するための手段】 上記目的を達成するためには、植物抽出物の中からスクリーニングを行った結果、パセリ (Petroselium sativum) の抽出物が、非常に良好な活性酸素消去作用、特に一重項酸素消去作用を有することを見出し、本発明を完成するに至った。

【0008】 パセリの抽出物を得る際の抽出部位は特に限定されないが、中でも葉、茎、根、種子部分から抽出

するのが好ましい。抽出時には、葉、茎、根、種子等を単独で、あるいは2種以上を組み合わせてもよく、また全草を用いることもできる。また、パセリを生のまま若しくは乾燥した状態で抽出することができる。

【0009】 抽出溶媒としても特に限定されないが、水、エタノール、メタノール、1, 3-ブチレングリコール、グリセリン、ジグリセリン、ポリグリセリン、イソプロピルアルコール等のアルコール類、アセトン、エーテル、テトラヒドロフラン等の有機溶媒等が例示され、これらを単独で又は2種以上を混合して用いることができる。

10 【0010】 さらに、抽出方法としては、室温、冷却又は加温した状態で含浸させて抽出する方法、水蒸気等の蒸留法を用いて抽出する方法、生のパセリから圧搾して抽出物を得る圧搾法等が例示され、これらの方法を単独で又は2種以上を組み合わせて抽出を行う。

【0011】 また、抽出物としては、粗抽出物をそのまま、若しくは粗抽出物を精製、分画したものを用いることができる。パセリ抽出物の製造例を以下に示す。

【0012】 パセリ抽出物 (1)

乾燥したパセリの葉を50重量%1, 3-ブチレングリコール水溶液で常温で24時間浸漬後、濾過して得られた抽出物をパセリ抽出物 (1) とした。

【0013】 パセリ抽出物 (2)

乾燥したパセリの根を「精製水」、「プロピレングリコール」「モノラウリン酸ポリオキシエチレンソルビタン(20EO)」の混液(81:15:4)で常温で24時間浸漬後、濾過して得られた抽出物をパセリ抽出物 (2) とした。

【0014】 パセリ抽出物 (3)

乾燥したパセリの全草をエタノールに浸漬し、濾過して得られた抽出物をパセリ抽出物 (3) とした。

【0015】 パセリ抽出物の活性酸素種による細胞傷害防御作用は、ヒト線維芽細胞に活性酸素種を曝露し、その際の細胞生存率を指標として評価できる。培養したヒト線維芽細胞に前記パセリ抽出物 (1) ~ (3) をそれぞれを作用させた後、洗浄し、ヒポキサンチン-キサンチンオキシダーゼ系にて活性酸素種 (スーパーオキシド及びヒドロキシラジカル) を曝露した。曝露後の細胞生存率はMTT還元法により測定した。

【0016】 なお、MTT還元法は、細胞のミトコンドリア内に存在する脱水素酵素が基質に作用して生じるNADHにより、系に添加したMTT (2-(4,5-ジメチル-2-チアゾリル)-3,5-ジフェニルテトラゾリウム ブロミド) のテトラゾリウム環が開環することを利用する測定方法である。テトラゾリウム環の開環により青色のフォルマザンが生成するので、これを560nmにおける吸光度測定により定量する。

【0017】

【表1】

	細胞生存率	I C ₅₀ (μg/ml)
バセリ抽出物(1)	72%	12.45±0.52
バセリ抽出物(2)	83%	11.68±0.36
バセリ抽出物(3)	79%	14.55±0.22
ブランク	15%	

その結果、表1に示すように、バセリの抽出物(1)～(3)を作用させた場合は、70～85%の良好な細胞生存率を示した。これに対してバセリ抽出物を作用させていないブランクでは、20%未満の低い細胞生存率を示した。

【0018】また、一重項酸素消去作用についても、2,2,6,6-テトラメチルピペリドン塩酸塩をスピントラップ剤としたESRスピントラップ法により測定した。まず、50μMヘマトポルフィリン、50mM2,2,6,6-テトラメチルピペリドン塩酸塩を100mMTri-s-塩酸緩衝液(pH8.0)に溶解し、5, 10, 20, 50, 100, 150μg/mlの各濃度の試料を添加した後、ESR用扁平水溶液セルに移し、これに長波長紫外線(UVA)を1分間照射して一重項酸素を発生させ、ESRスペクトルを測定した。ESRスペクトル強度より、一重項酸素消去率を求め、これを濃度に対してプロットし、50%抑制濃度I C₅₀を求めた。結果を表1に示したとおり、バセリ抽出物がきわめて低い濃度で、一重項酸素消去作用を示していた。

【0019】

【発明の実施の形態】本発明において、上記バセリ抽出物の老化防止用皮膚外用剤への配合量は、0.001～5重量%が適当である。配合量が0.001重量%以下であると、十分な活性酸素消去効果が得られないが、あまり多量に配合する必要もない。

【0020】本発明にかかる老化防止用皮膚外用剤は、ローション、油剤、乳剤、クリーム、軟膏等の形態をとることができる。またさらに、化粧水、クリーム、乳液、パック、美容液、洗浄料等の様々な形態の化粧料として提供することができる。

【0021】また、本発明における皮膚外用剤の適用部位は、顔面のみならず、頭皮、肩、腕、腹、背中、脚部等全身に使用できる。

【0022】本発明においてはさらに必要に応じて、本発明の効果を損なわない範囲で、化粧品、医薬品等に一般に用いられている各種成分、すなわち、アボカド油、パーム油、ピーナツ油、コメヌカ油、ホホバ油、オレンジラフィー油、マカデミアナッツ油、スクワラン、月見草油、セサミ油、サンフラワー油、サフラワー油、キャローラ油、カルナウバワックス、パラフィンワックス、ラノリン、リンゴ酸ジイソステアリル、イソステアリルアルコール、流動パラフィン等の油分、グリセリ

ン、ジグリセリン、ポリグリセリン、ソルビット、ポリエレンゲリコール、1,3-ブチレンゲリコール、コラーゲン、ヒアルロン酸等の保湿剤、ビタミンA油、レチノール、酢酸レチノール等のビタミンA類、リボフラビン、酪酸リボフラビン等のビタミンB₂類、塩酸ピリドキシン等のビタミンB₆類、L-アスコルビン酸、L-アスコルビルリン酸マグネシウム、L-アスコルビン酸ナトリウム等のビタミンC類、パントテン酸カルシウム、D-パントテニルアルコール、パントテニルエチルエーテル、アセチルパントテニルエチルエーテル等のパントテン酸類、エルゴカルシフェロール、コレカルシフェロール等のビタミンD類、ニコチン酸、ニコチン酸アミド、ニコチン酸ベンジル等のニコチン酸類、α-トコフェロール、酢酸トコフェロール等のビタミンE類、ビタミンP、ビオチン等のビタミン類、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸ナトリウム等のベンゾフェノン誘導体、パラアミノ安息香酸、パラアミノ安息香酸エチル、パラジメチルアミノ安息香酸オクチル等のパラアミノ安息香酸誘導体、パラメトキシ桂皮酸-2-エチルヘキシル、ジパラメトキシ桂皮酸モノ-2-エチルヘキサン酸グリセリル等のメトキシ桂皮酸誘導体類、サリチル酸オクチル、サリチル酸ミリスチル等のサリチル酸誘導体、ウロカニン酸、4-tert-ブチル-4'-メトキシジベンゾイルメタン、2-(2'-ヒドロキシ-5'-メチルフェニル)ベンゾトリアゾール等の紫外線吸収剤、グアガム、ローカストビーンガム、カラギーナン、クインスシード、ベクチン、マンナン等の植物系天然多糖類、キサンタンガム、デキストラン、カードラン、ヒアルロン酸等の微生物系天然多糖類、ゼラチン、カゼイン、アルブミン、コラーゲン等の動物系高分子、メチルセルロース、エチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、カルボキシメチルセルロース等のセルロース系半合成高分子、可溶性デンブン、カルボキシメチルデンブン、メチルデンブン等のデンブン系半合成高分子、アルギン酸プロピレンゲリコールエステル、アルギン酸塩等のアルギン酸系半合成高分子、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、カルボキシビニルポリマー、ポリアクリル酸ナトリウム、ポリエチレンオキサイド等の合成高分子、ペントナイト、ラボナイト、コロイダルアルミナ等の無機物系高分子等の水溶性高分子、ジブチルヒドロキシトルエン、ブチルヒドロキシアニソール、没食子酸エステル等の酸化防止剤、高級脂肪酸石鹼、アルキル硫酸エステル塩、ポリオキシエチレンアルキルエーテル硫酸塩、アシルメチルタウリン塩、アルキルエーテルリン酸エステル塩、アシルアミノ酸塩等のアニオン界面活性剤、塩化アルキルトリメチルアンモニウム、塩化ジアルキルジメチルアンモニウム、塩化ベンザルコニウム等の

カチオン界面活性剤、アルキルジメチルアミノ酢酸ベタイン、アルキルアミドジメチルアミノ酢酸ベタイン、2-アルキル-N-カルボキシメチル-N-ヒドロキシエチルイミダゾリニウムベタインなどの両性界面活性剤、ポリオキシエチレン型ノニオン界面活性剤、アルコールエステル型ノニオン界面活性剤等の界面活性剤、エチレンジアミン4酢酸ナトリウム塩、ポリリン酸ナトリウム、クエン酸、メタリン酸ナトリウム、コハク酸、グルコン酸等の金属イオン封鎖剤、胎盤抽出物、ソウハクヒエキス、グルタチオン、コウジ酸及びその誘導体類、ハイドロキノン配糖体等のハイドロキノン及びその誘導体類等の美白剤、グリチルリチン酸、グリチルレチン酸、アラントイン、アズレン、ヒドロコルチゾン、 ϵ -アミノカプロン酸等の抗炎症剤、酸化亜鉛、アラントインヒドロキシアルミニウム、塩化アルミニウム、タンニン酸、クエン酸、乳酸等の收敛剤、メントール、カンフル等の清涼化剤、塩酸ジフェンヒドラミン、マレイン酸クロルフェニラミン等の抗ヒスタミン剤、エストラジオール、エストロン、エチニルエストラジオール等の皮脂抑制剤、サリチル酸、レゾルシン等の角質剥離・溶解剤、バラヒドロキシ安息香酸エチル、バラヒドロキシ安息香酸メチル、バラヒドロキシ安息香酸ブチル、バラヒドロキシ安息香酸プロピル、エチレングリコールモノフ*

[実施例1] 液状皮膚外用剤

(1)グリセリン	5. 0 (重量%)
(2)プロピレングリコール	4. 0
(3)エタノール	10. 0
(4)バセリ抽出物 (1)	0. 5
(5)バラオキシ安息香酸メチル	0. 1
(6)精製水	80. 4

(5)を(3)に溶解して(6)に加え、(1)、(2)、(4)を順次添加し、混合、均一化する。

※

[実施例2] 化粧水

(1)1,3-ブチレングリコール	3. 0 (重量%)
(2)ソルビトール	2. 0
(3)エタノール	10. 0
(4)カルボキシビニルポリマー1重量%水溶液	10. 0
(5)バセリ抽出物 (2)	0. 3
(6)香料	0. 1
(7)精製水	74. 6

(6)を(3)に溶解して(7)に加え、(1)、(2)、(5)を順次添加して混合した後、(4)を加え、混合、均一化する。★

[実施例3] O/W型乳剤性軟膏

(1)白色ワセリン	25. 0 (重量%)
(2)ステアリルアルコール	15. 0
(3)ラウリル硫酸ナトリウム	1. 0
(4)バラオキシ安息香酸ブチル	0. 1
(5)バセリ抽出物 (3)	0. 5
(6)精製水	58. 4

(1)～(4)の油相成分を混合し75℃に加熱して溶解、均

50一化する。75℃に加熱した(6)に油相成分を添加して

*エニルエーテル等の抗菌防腐剤、グリセリン、カンファ一等の温感剤、 α -ヒドロキシ酸類等が配合できる。

【0023】さらに、細胞賦活、保湿、血行促進、抗炎症、收敛、抗菌、抗酸化、皮脂抑制作用等の生理活性を有するアルニカ、アロエ、イタドリ、イラクサ、ウイキョウ、エンメイソウ、オウバク、オランダガラシ、カキドオシ、カミツレ、カンゾウ、キナ、キンギンカ、キユウリ、クジン、ゲンチアナ、ゲンノショウコ、ゴボウ、コウスイハッカ、サンショウ、ジュウヤク、ショウキョウ、シラカンバ、スギナ、セイヨウキズタ、セイヨウノコギリソウ、セージ、センブリ、タイム、タチジャコウソウ、チョウジ、チンピ、トウガラシ、トウキンセンカ、トウキ、トウヒ、ニンジン、ノイチゴ、ハッカ、ハマボウフウ、ハマメリス、バラ、フキタンボボ、ヘンナ、ボダイジュ、ホップ、ホホバ、マルメロ、マロニエ、ヤグルマギク、ヤドリギ、ユーカリ、ユキノシタ、ユリ、ラベンダー、ローズマリー等の植物抽出物及びこれらの抽出物の分画、精製物をバセリ抽出物と併用することにより、相乗効果を発揮する。

【0024】

【実施例】さらに本発明の特徴について、実施例により詳細に説明する。

【0025】

5. 0 (重量%)
4. 0
10. 0
0. 5
0. 1
80. 4

※【0026】

※

3. 0 (重量%)
2. 0
10. 0
10. 0
0. 3
0. 1
74. 6

★【0027】

25. 0 (重量%)
15. 0
1. 0
0. 1
0. 5
58. 4

乳化し、冷却後40℃にて(5)を添加、混合、均一化する。

*【0028】

*

[実施例4] O/W乳化型美容液

(1)スクワラン	5.0 (重量%)
(2)白色ワセリン	2.0
(3)ミツロウ	0.5
(4)ソルビタンセスキオレエート	0.8
(5)ポリオキシエチレンオレイルエーテル(20EO)	1.2
(6)プロピレングリコール	5.0
(7)パラオキシ安息香酸メチル	0.1
(8)精製水	59.8
(9)カルボキシビニルポリマー1.0重量%水溶液	20.0
(10)水酸化カリウム	0.1
(11)エタノール	5.0
(12)パセリ抽出物(1)	0.3
(13)香料	0.2

(1)～(5)の油相成分を混合し75℃に加熱して溶解、均一化する。一方(6)～(8)の水相成分を混合、溶解して75℃に加熱し、前記の油相成分を添加して予備乳化する。(9)を添加した後ホモミキサーにて均一に乳化し、※20

※(10)を加えてpHを調整する。冷却後40℃にて(11)～(13)を添加、混合、均一化する。

【0029】

[実施例5] W/O乳化型クリーム

(1)ミツロウ	3.0 (重量%)
(2)吸着精製ラノリン	10.0
(3)スクワラン	30.0
(4)固体パラフィン	2.0
(5)マイクロクリスタリンワックス	5.0
(6)アジピン酸ヘキシルデシル	10.0
(7)セスキオレイン酸ソルビタン	3.5
(8)ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油(50EO)	1.0
(9)1,3-ブチレングリコール	5.0
(10)精製水	29.3
(11)パラオキシ安息香酸メチル	0.2
(12)パセリ抽出物(2)	1.0

(1)～(8)の油相成分を混合し75℃に加熱して溶解、均一化する。一方(9)～(11)の水相成分を混合、溶解して75℃に加熱し、前記の油相成分に添加してホモミキサ★

★にて均一に乳化する。冷却後40℃にて(12)を添加、混合する。

【0030】

[実施例6] O/W型乳液

(1)ミツロウ	0.7 (重量%)
(2)スクワラン	5.0
(3)ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油(50EO)	2.0
(4)精製水	61.8
(5)1,3-ブチレングリコール	5.0
(6)パラオキシ安息香酸メチル	0.2
(7)1%カルボキシメチルセルロース水溶液	20.0
(8)エタノール	5.0
(9)パセリ抽出物(3)	0.3

(1)～(3)の油相成分を混合、溶解して均一とし、75℃に加熱する。一方、(4)～(6)を混合、溶解して75℃に加熱し、これに上記油相成分を添加して予備乳化した後、(7)を加えてホモミキサーにて均一に乳化する。そ

の後冷却し、40℃で、(8)、(9)を添加する。

【0031】本発明の実施例について、皮膚の老化防止効果を、皮膚のしわ発生防止効果の評価により検討した。ヘアレスマウス5匹を一群とし、各群について本発

明の実施例及び比較例をそれぞれ1日1回背部に塗布し、1J/平方cm/週のUVAを50週間照射し、しわの発生状況を経時的に肉眼観察により評価した。実施例1~6における比較例は、パセリ抽出物を精製水に代替して調製した。しわの発生状況は、「発生せず；0点」、「微小なしわがわずかに発生；1点」、「軽微なしわが明確に発生；2点」、「中程度のしわが発生；3点」、「深いしわが発生；4点」として点数化し、各群の平均点を算出して、表2に示した。その際、精製水を塗布した群を対照とした。

【0032】

【表2】

		経過時間(週)					
		0	10	20	30	40	50
実施例	1	0.13	0.16	0.22	0.36	0.71	0.99
	2	0.15	0.18	0.26	0.33	0.76	0.95
	3	0.17	0.20	0.27	0.38	0.79	0.91
	4	0.18	0.21	0.26	0.31	0.74	0.89
	5	0.12	0.16	0.19	0.23	0.69	0.87
	6	0.14	0.15	0.22	0.30	0.72	0.99
比較例	1	0.14	0.19	0.32	0.77	1.79	3.02
	2	0.20	0.24	0.38	0.76	1.82	3.11
	3	0.17	0.21	0.39	0.81	1.87	3.03
	4	0.22	0.25	0.38	0.61	1.51	2.83
	5	0.15	0.19	0.31	0.64	1.45	2.78
	6	0.18	0.20	0.35	0.60	1.78	3.05
対照		0.18	0.54	0.89	1.25	2.43	3.57

*

項目	評価	実施例						比較例					
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
しわ	減少	7	4	5	8	8	6	0	0	0	0	0	0
	やや減少	3	6	5	2	2	4	1	0	0	1	3	2
	変化なし	0	0	0	0	0	0	8	8	8	9	7	7
	増加	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	1
皮膚	増加	7	6	9	10	9	8	0	0	0	0	0	0
	変化なし	3	4	1	0	1	2	2	1	2	7	8	4
	やや減少	0	0	0	0	0	0	8	8	8	3	2	6
弹性	減少	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0

表3より明らかなように、パセリ抽出物を配合した実施例1~6を使用したパネラーについては全員、しわの減少及び皮膚弾性の上昇が認められている。これに対し、比較例1~6を使用したパネラーでは、しわがやや減少したパネラーもいるが、ほとんど変化無く、皮膚弾性もはつきり増加したのは、比較例4、5で各1名いるだけであり、比較例を使用したパネラーのほとんどで、皮膚の老化が進行していることが示された。

【0035】なお、上記の使用期間において、いずれの

*表2より、パセリ抽出物を配合した実施例1~6塗布群においては、いずれもしわの発生が顕著に抑制されており、UVAを50週間照射した後においても、各群とも微小なしわの発生を認めただけであった。これに対し、比較例1~6塗布群においては、対照群に比べ若干のしわ発生抑制効果は認められるが、いずれにおいても明確なしわの形成が見られ、形成されたしわはほぼ中程度の深さにまで達していた。

【0033】統いて、本発明の実施例及び比較例について使用試験を行った。皮膚のしわ及び弾性の低下を主な症状として有するパネラー10名を一群とし、各群にそれぞれ実施例及び比較例をブラインドにて顔面及び手に使用させ、しわ及び皮膚弾性の変化を観察し、評価した。使用期間は4月~翌年3月の1年間とした。しわについては、「減少」、「やや減少」、「変化なし」、「増加」の4段階、皮膚弾性については「上昇」、「やや上昇」、「変化なし」、「低下」の4段階にて評価をし、各評価を得たパネラー数にて表3に示した。

【0034】

【表3】

実施例を使用した群においても、痛み、痒み等の皮膚刺激やアレルギー反応等の皮膚症状を訴えたパネラーはいなかった。

【0036】

【発明の効果】以上詳述したように、本発明によるパセリ抽出物を配合した老化防止用皮膚外用剤は、生体内代謝や太陽紫外線曝露により皮膚内に生じる活性酸素種、特に一重項酸素を消去し、これらに起因する皮膚の老化を良好に防止することができる。本発明において配合す

11

るバセリ抽出物は、非常に低濃度で優れた老化防止作用を示すため、少量配合するだけで有効な効果を発揮させ

12

ることができ、安全性に優れた老化防止用皮膚外用剤を得ることができる。